



伊賀市で建設計画が進め「とおつきあい」は31日、  
 られている川上ダムや水利 伊賀市阿保の青山福祉セン  
 用、治水などについて考え ターで開かれ、市内外から  
 るシンポジウム「伊賀の水 約200人が集まった。

専門家「伊賀市の負担重い」

# 川上ダム巡り討論

パネル討論する嘉田由紀子氏(右)ら=伊賀市阿保

嘉田由紀子・前滋賀県知  
 事はパネル討論で、在任中  
 に滋賀県が制定した流域治  
 水条例の考え方が、国にも  
 理解されるようになってき  
 たと説明した。今本氏は滋  
 賀県の取り組みに関連し、  
 「30年後は確実にダムは終  
 わりだ。滋賀県は時代を先  
 取りしたが、国土交通省は  
 まだ仲間内のムラ行政をし  
 ている」と述べた。  
 鳴津暉之・水源開発問題  
 全国連絡会共同代表は講演  
 で、川上ダムの建設にかか  
 る1266億円のうち、伊

今本博健・京都大名教授  
 授(河川工学)は、伊賀市  
 で6月に運用が本格化した  
 上野遊水地について、越流  
 堤の高さが最適値よりも低  
 いと疑問を呈し、「越流頻  
 度を増やすことで、川上ダ  
 ムが必要だと地元から声  
 が出るようにしたのは」と  
 指摘した。

賀市の負担額は123億、  
 147億円(利息・消費税  
 込み、国庫補助金を除く)  
 になるとし、全国の他の水  
 源開発に比べて市の負担が  
 重いとした。パネル討論で  
 は、「国は不当な水利権行  
 政で伊賀市にダム建設への  
 参画を強いている。不当さ  
 を全国に訴えることを期待  
 している」と話した。  
 (駒井匠)

# 伊賀の水事情を探る 前滋賀県知事ら登壇しシンポ



パネル討論をする(左から)今本さん、  
 嶋津さん、嘉田さん=伊賀市阿保で

伊賀市の水事情を考  
 えるシンポジウム「伊  
 賀の水とおつきあい」  
 未来のための選択」  
 が三十一日、伊賀市阿  
 保の青山福祉センター  
 であった。前滋賀県知  
 事の嘉田由紀子さんと  
 治水、利水の専門家が  
 登壇し、ダムや遊水地  
 について話した。  
 嘉田さんのほか、京  
 都大名教授の今本博  
 健さん(河川工学)は  
 青山地区で計画が進む  
 川上ダムと、市内で整  
 備されている上野遊水  
 地についてデータを示

しながら説明。川上ダ  
 ムは中止すべきと訴え  
 た。水源開発問題全国  
 連絡会共同代表で、各  
 地のダム問題に詳しい  
 嶋津暉之さんは、川上  
 ダム建設にかかる市民  
 の負担や伊賀の水利権  
 について話した。  
 三人によるパネル討  
 論では、在任中にダム  
 建設の凍結、中止に取  
 り組んだ嘉田さんが川  
 上ダムについて「国民  
 の税金を泥棒するなど  
 言いたい」と訴えた。  
 シンポジウムは地元  
 住民らでつくる実行委  
 員会が主催し、約二百  
 三十人が参加した。  
 (中山梓)

# 「川上ダム中止へ議員代えよう」

嘉田・前滋賀県知事シンポで講演



講演する嘉田由紀子・前滋賀県知事  
 =伊賀市阿保の青山福祉センターで

シンポジウム  
 「伊賀の水との  
 おつきあい」未  
 来のための選択」(美  
 行委主催)が10月31日、  
 伊賀市阿保の青山福祉  
 センターが開かれ、市  
 内外から約230人が  
 参加した。びわこ成蹊  
 スポーツ大学長の嘉田  
 由紀子(前滋賀県知事)が  
 「川上ダム中止へ議員代えよう」  
 と題して講演し、「川  
 上ダム(伊賀市)を止  
 めるには、政治家を代  
 えるしかない」などと  
 訴えた。  
 嘉田前知事は、滋賀  
 県が昨年3月、全国初  
 の流域治水条例を制定  
 したことを説明。「ダ  
 ムだけに頼らない、さ  
 まざまな手段を総動員  
 する治水」と定義し、  
 河川掘削や堤防、調整  
 池の整備などのほか、  
 水害履歴の公表による  
 防災意識の向上も訴え  
 た。特に、不動産取引に  
 水害リスク情報を提供  
 する条文に、保守系県  
 議が反発したことを紹  
 介した。さらに、「知事  
 就任後、滋賀県の大戸  
 川ダムと丹生ダムをス  
 トップさせた経験から  
 「もう遅いかも」しれな  
 いが、川上ダムを中止  
 したければ身近な議  
 員から代えよう」と  
 と説いた。【村瀬達男】